

「船橋市立医療センターの建て替えに関する市民アンケート調査」 集 計 結 果（概要版）

●アンケート調査の実施について

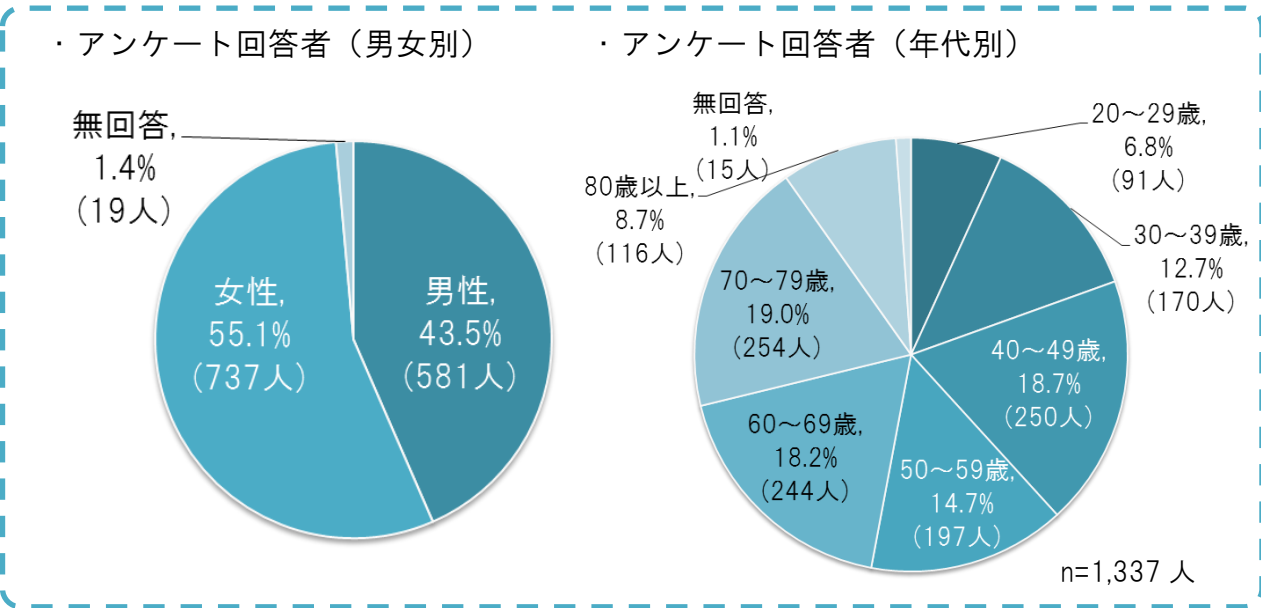
船橋市立医療センターの建て替えに向けて、新病院に対するニーズやご意見などを伺い、医療センター建替基本計画の作成をはじめ、より良い病院を作るための参考資料にさせていただくことを目的として、アンケート調査を実施いたしました。

【アンケート調査の概要】

- (1) 調査対象 船橋市在住の満 20 歳以上の男女 3,000 人
- (2) 標本抽出 住民基本台帳からの無作為抽出
- (3) 調査方法 郵送法（郵送配付一郵送回収法）
- (4) 調査期間 平成 30 年 2 月 9 日（金）～2 月 26 日（月）
- (5) 有効回収数 1,337 人（44.6%）

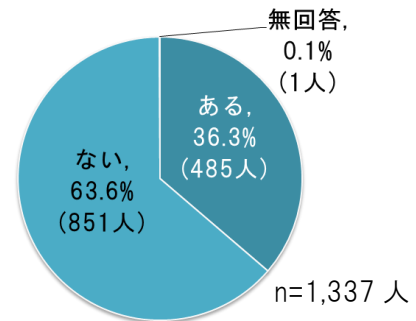
- ・集計は、小数点第 2 位を四捨五入しています。したがって、数値の合計が 100%にならない場合があります。
- ・(n) は、基数となるべき実数であり、設問に対する回答者数です。
- ・回答の比率 (%) は、その質問の回答者数を基数として算出しています。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると、100.0%を超えることがあります。
- ・本文や図表中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化しています。

●アンケート回答者の属性



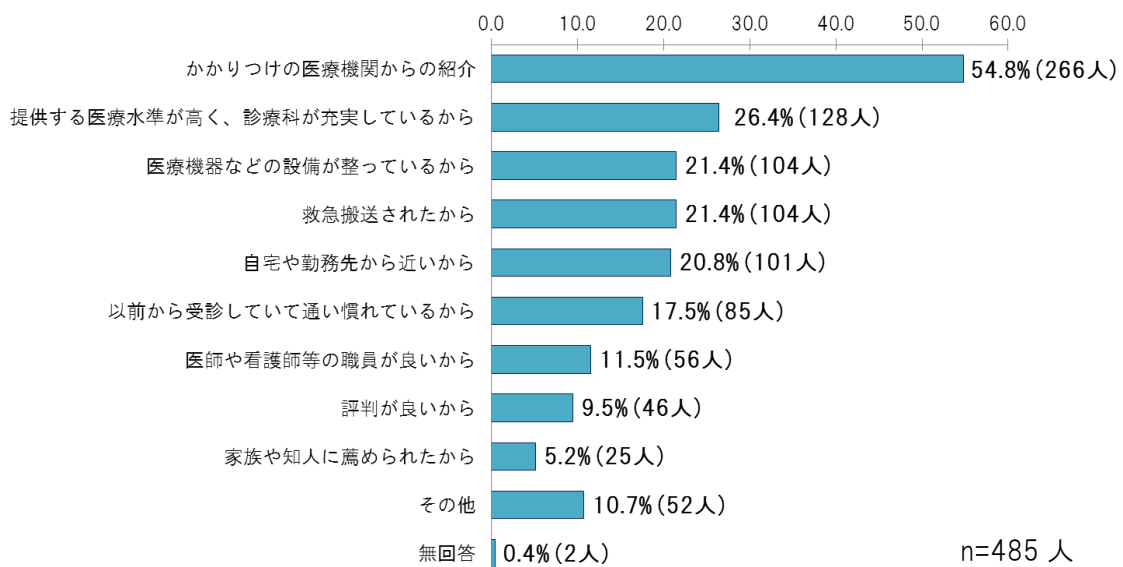
●医療センターの利用経験

1. あなたは、最近5年間で医療センターを患者・家族として利用（入院又は通院）したことがありますか。



●医療センターを利用した理由

2. 「医療センターを利用したことがある」と答えた方にお聞きします。医療センターを利用した理由は何ですか。（○はいくつでも）



○利用したことがある方の54.8%が「かかりつけ医療機関からの紹介」であり、地域医療支援病院としての機能に合った利用がされている傾向がうかがえます。

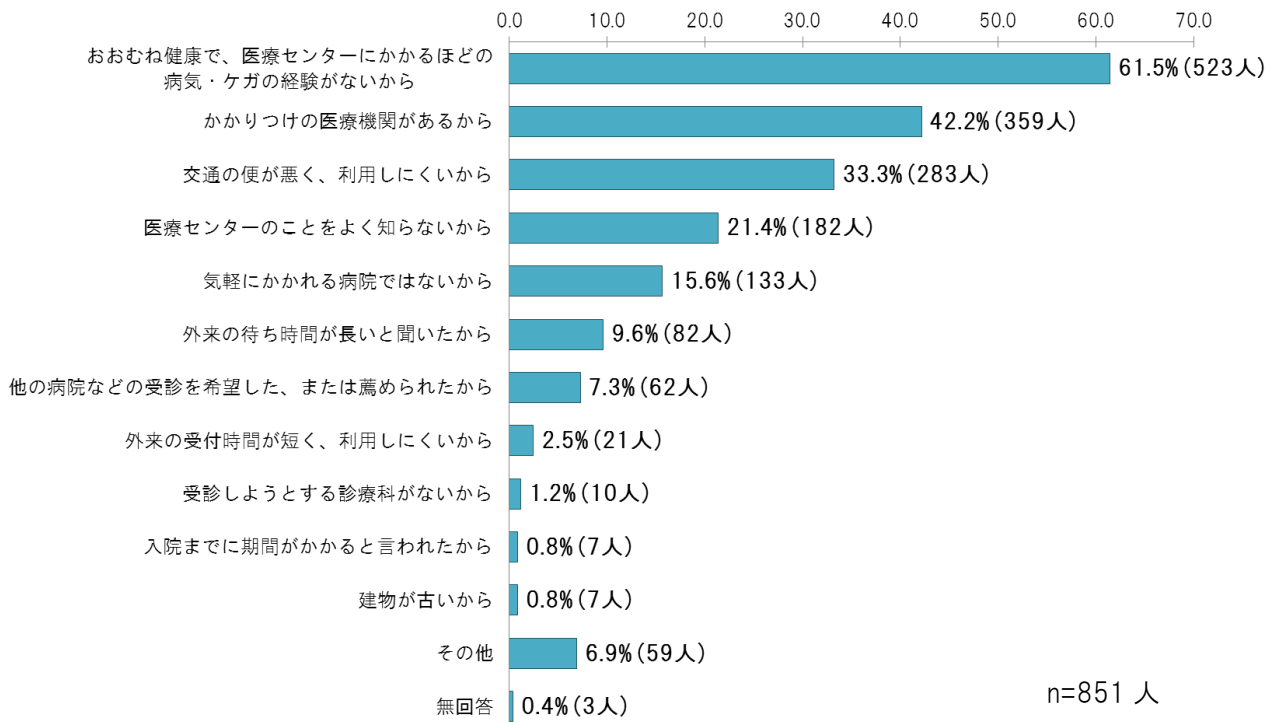
○次いで、「提供する医療水準が高く、診療科が充実しているから」、「医療機器などの設備が整っているから」と、高度医療を提供している病院であることが上位となっています。

【その他の意見（主なもの）】

- ・ 定期診療、専門医の受診（週一回）
- ・ 子供の救急で利用した
- ・ 家族が入院している など

●医療センターを利用したことがない理由

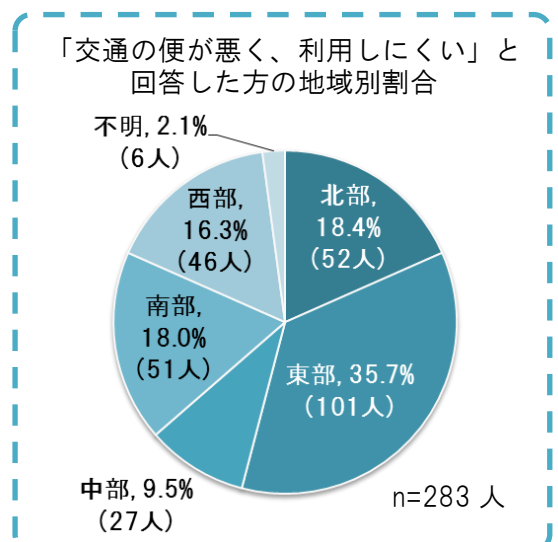
3. 「医療センターを利用したことがない」と答えた方にお聞きします。
医療センターを利用したことがない（しなくなった）理由は何ですか。
（〇はいくつでも）



- 利用したことがない方の 61.5%は、「おおむね健康で、医療センターにかかるほどの病気・ケガの経験がないから」でした。また、「かかりつけの医療機関があるから」が 42.2%と多く、医療の機能分化・連携が図られている傾向がうかがえます。
- 「交通の便が悪く、利用しにくいから」という回答は 33.3%であり、地域別に分析すると、船橋市の東部地域が高い割合を占めています。

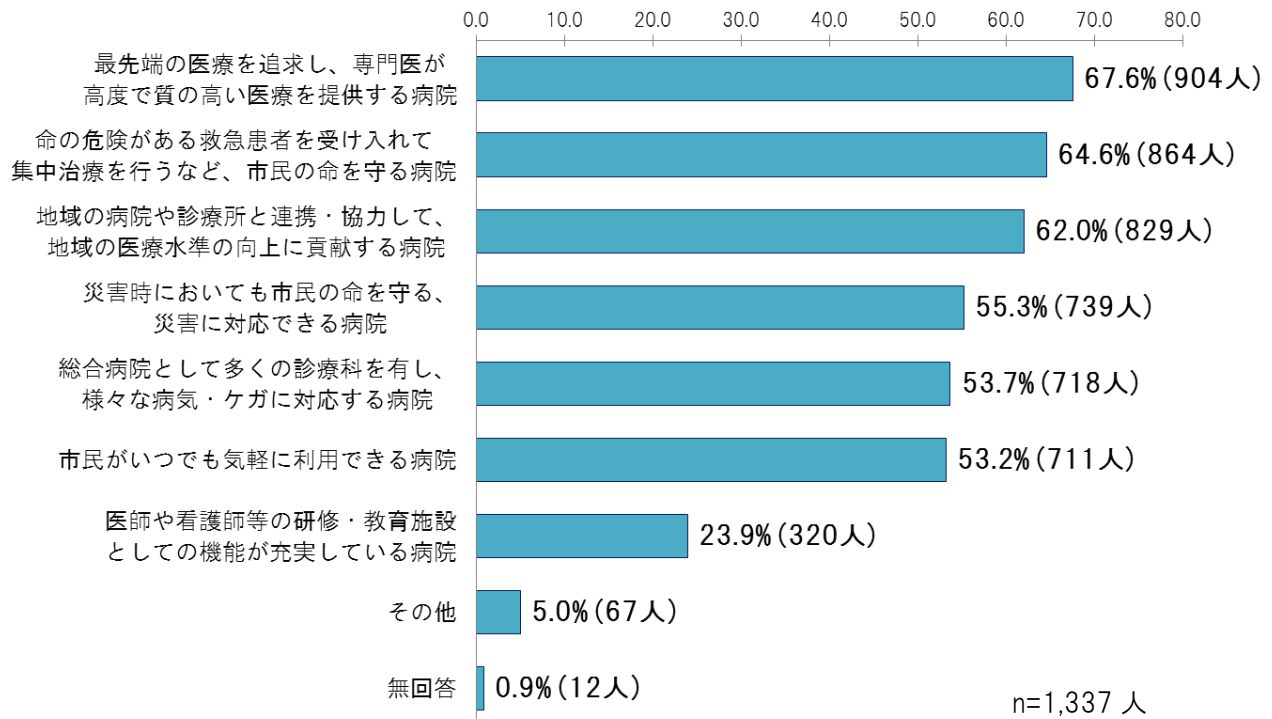
【その他の意見（主なもの）】

- ・利用する機会がなかったから
- ・他の病院の方が近いから、家から遠いから
- ・救急車搬送時にベッドが空いていなかったため、他病院に搬送されたから
- ・紹介状がないと受付できないと聞いたからなど



●新病院がどのような病院になることを望むか

4. あなたは新しい医療センターがどのような病院になることを望みますか。
(○はいくつでも)



○複数回答ができる設問であり、ほとんどの項目について、半数以上の方が望んでいるという回答でした。医療センターが担う「地域医療支援病院」、「救命救急センター」、「高度医療を担う総合診療施設」といった診療機能と概ね一致しています。

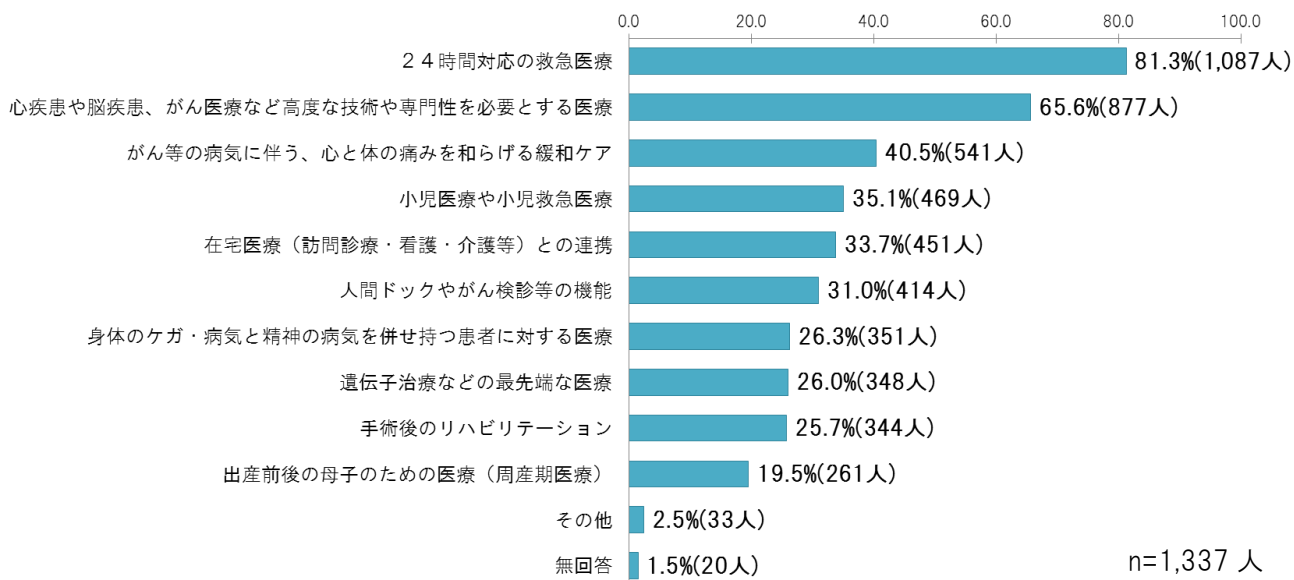
○一方で、「医師や看護師等の研修・教育施設としての機能が充実している病院」は23.9%と他と比べて低い回答率となっています。

【その他の意見（主なもの）】

- ・ 専門性があり、頼れる病院
- ・ 総合的な医療を行う病院（身体全体を包括的に診てくれる病院）
- ・ 医師や看護師が患者に寄り添うような病院
- ・ 利便性のよい病院（土日祝日の診療など）
- ・ 介護ともしっかり連携を取る病院 など

●新病院で充実してほしい医療サービス

5. あなたは新病院でどのような医療サービスを充実してほしいですか。
(〇はいくつでも)



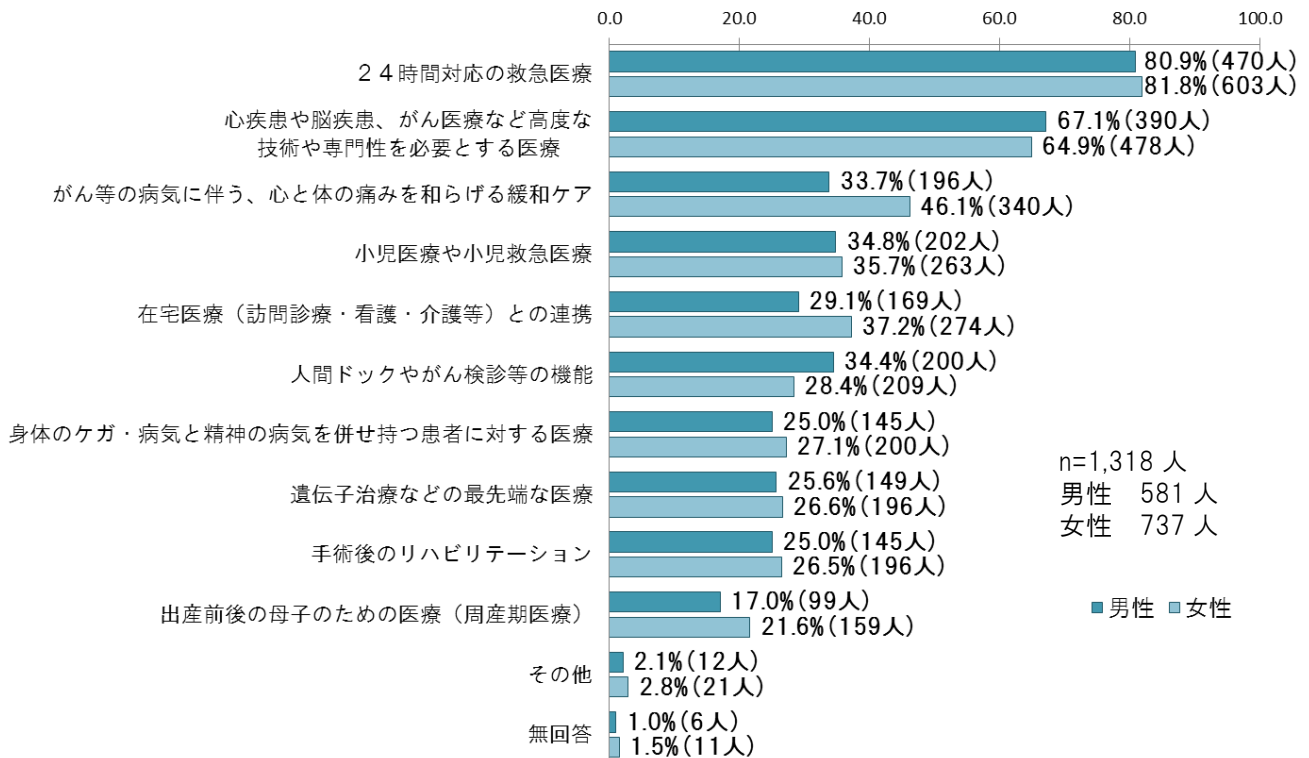
○新病院で充実してほしい医療サービスは、81.3%の方が「24時間対応の救急医療」、65.6%の方が「心疾患や脳疾患、がん医療など高度な技術や専門性を必要とする医療」と回答しています。

【その他の意見（主なもの）】

- ・ どの診療科に受診すればよいかわからない場合の総合診療科の設置
- ・ 退院時の相談対応の充実
- ・ 待ち時間の短縮 など

●新病院で充実してほしい医療サービス（男女別）

【男女別】



○男女別の集計では、「がん等の病気に伴う、心と体の痛みを和らげる緩和ケア」、「在宅医療（訪問診療・看護・介護等）との連携」、「出産前後の母子のための医療（周産期医療）」は、女性の回答率が男性より高くなっています。

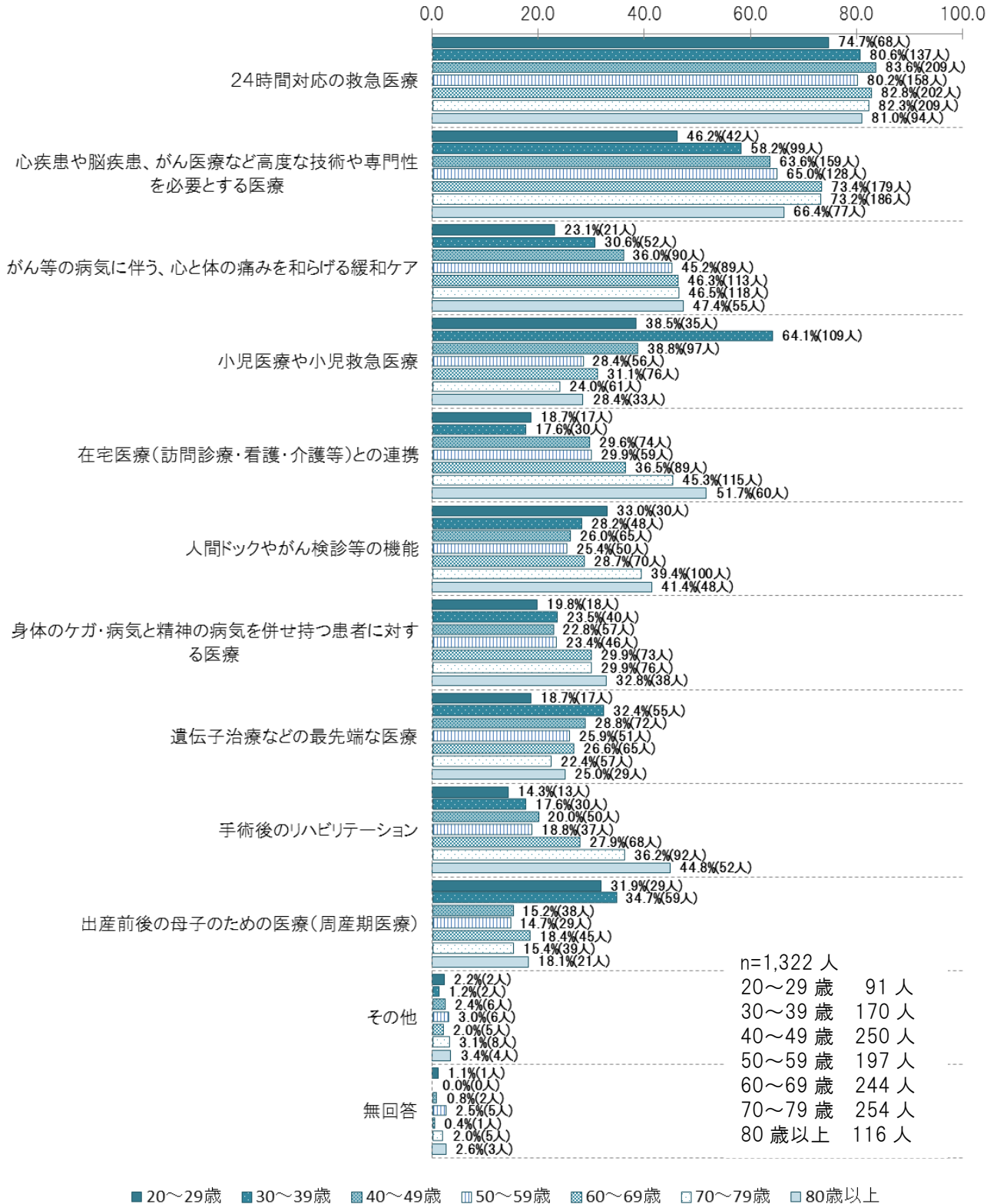
○一方、「人間ドックやがん検診等の機能」については、男性の回答率が女性より高く、性別により、充実してほしい医療サービスのニーズが異なっています。

○年代別の集計（p.7 参照）では、「小児医療や小児救急医療」は30代の回答率が他の世代より高くなっています。また、「出産前後の母子のための医療（周産期医療）」は20代、30代の回答率が他の世代より高くなっています。

○「がん等の病気に伴う、心と体の痛みを和らげる緩和ケア」、「在宅医療（訪問診療・看護・介護等）との連携」、「手術後のリハビリテーション」は、70代、80代以上の回答率が高く、年代が上がるにつれ、回答率が上がっていく傾向が見られます。

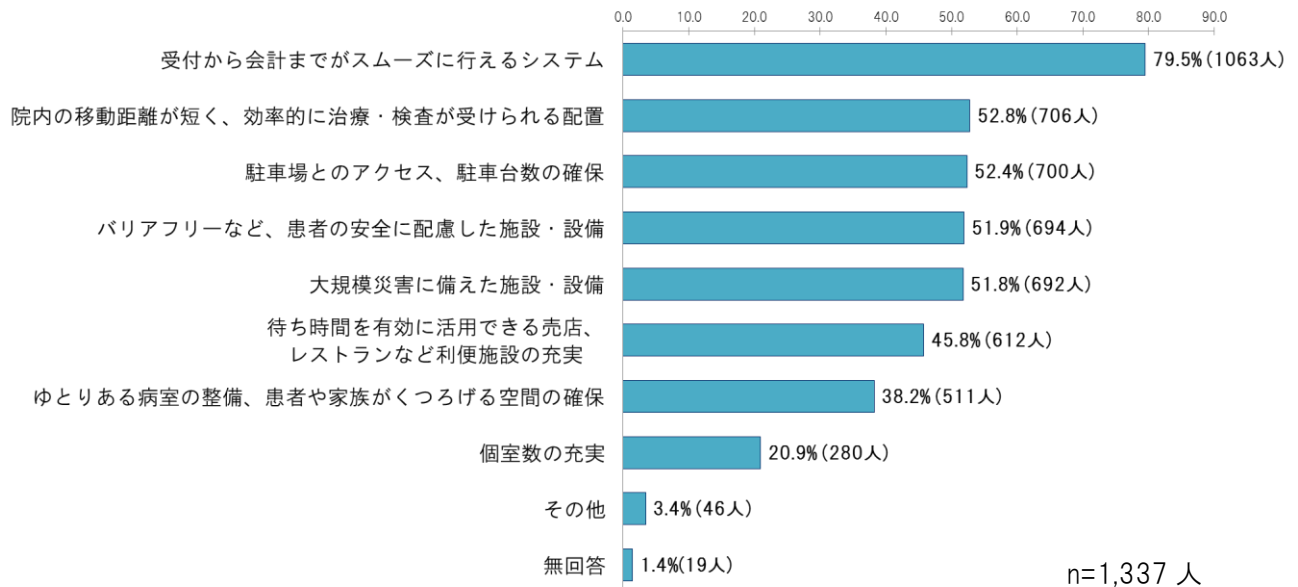
●新病院で充実してほしい医療サービス（年代別）

【年代別】



●新病院で充実してほしい施設・設備

6. あなたは患者としてどのような施設・設備を充実してほしいですか。
(〇はいくつでも)



○回答率が高い順に「受付から会計までがスムーズに行えるシステム」が **79.5%**、「院内の移動距離が短く、効率的に治療・検査が受けられる配置」が **52.8%**となっており、スムーズで効率的な受診に関するニーズが高いことが分かります。

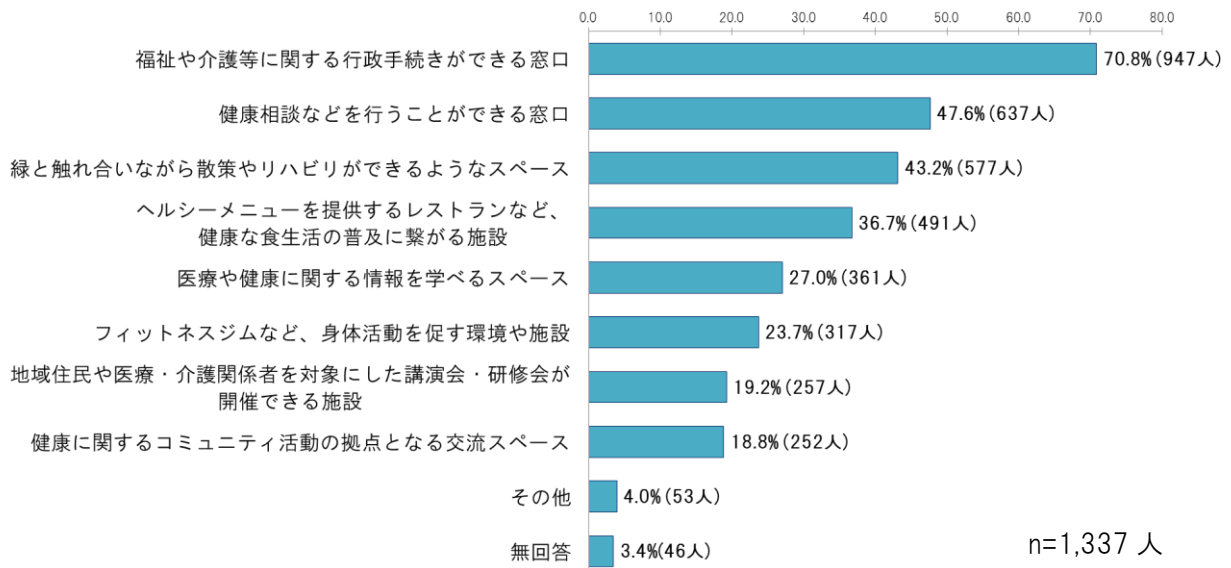
○一方、「個室数の充実」、「ゆとりある病室の整備、患者や家族がくつろげる空間の確保」、「待ち時間を有効に活用できる売店、レストランなどの利便施設の充実」など、入院中の環境や待ち時間の有効活用に関するニーズは他と比べて低くなっています。

【その他の意見（主なもの）】

- ・ベッド数、定員の増加
- ・待ち時間が少なくできる予約システム、待ち時間をお知らせする機能
- ・駅に近いなど、交通アクセスがよいこと
- ・必要により入院がスムーズにできる病院 など

●新病院や「メディカルタウン」に望む機能・施設

7. 移転候補地周辺では、「医療と健康」をコンセプトにした「ふなばしメディカルタウン」の実現に向け、検討を進めています。新病院やこのまちづくりの中にあると良い機能・施設は何ですか。(〇はいくつでも)



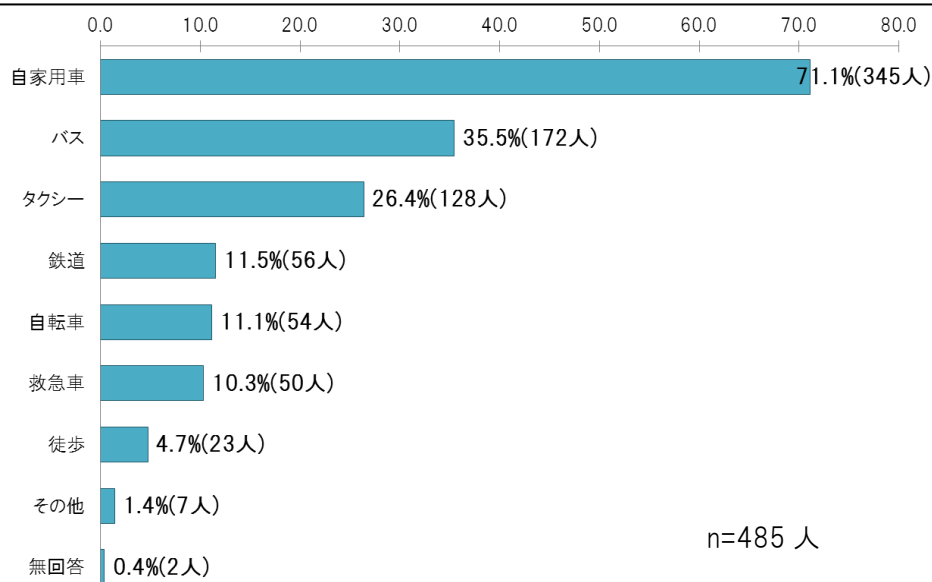
○回答率が一番高かった項目は、「福祉や介護等に関する行政手続きができる窓口」で70.8%となっています。続いて、「健康相談などを行うことができる窓口」、「緑と触れ合いながら散策やリハビリができるようなスペース」となっております。

【その他の意見 (主なもの)】

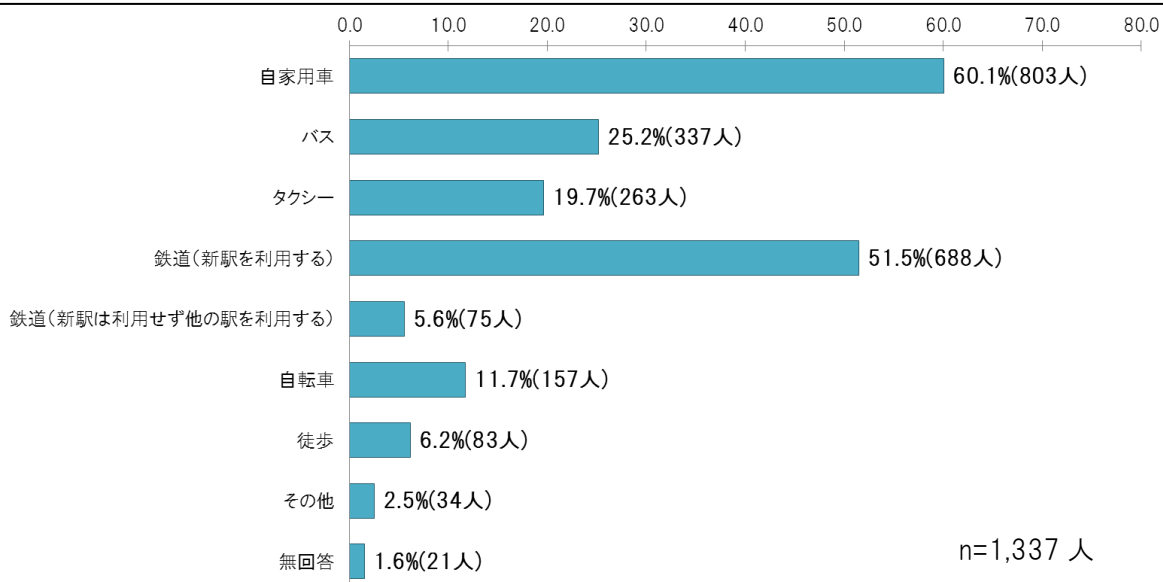
- ・入院、治療に伴う高額医療等の行政手続きができる窓口の施設
- ・スポーツクラブ、ヘルシー食の料理教室、講習会など、人と触れ合えるサークル施設
- ・質の良いランニングコースの整備、ランニングステーションの設置
- ・夜間、休日にかかれる医療機関
- ・地域包括ケアに関連した情報サービスの提供 (特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅などに関して)

●医療センターを利用する場合の交通手段

8-1. 「医療センターを利用したことがある」と答えた方にお聞きします。
 あなたが医療センターを利用したときの交通手段はどれですか。
 ※外来・検査・見舞い等での来院を想定（〇はいくつでも）

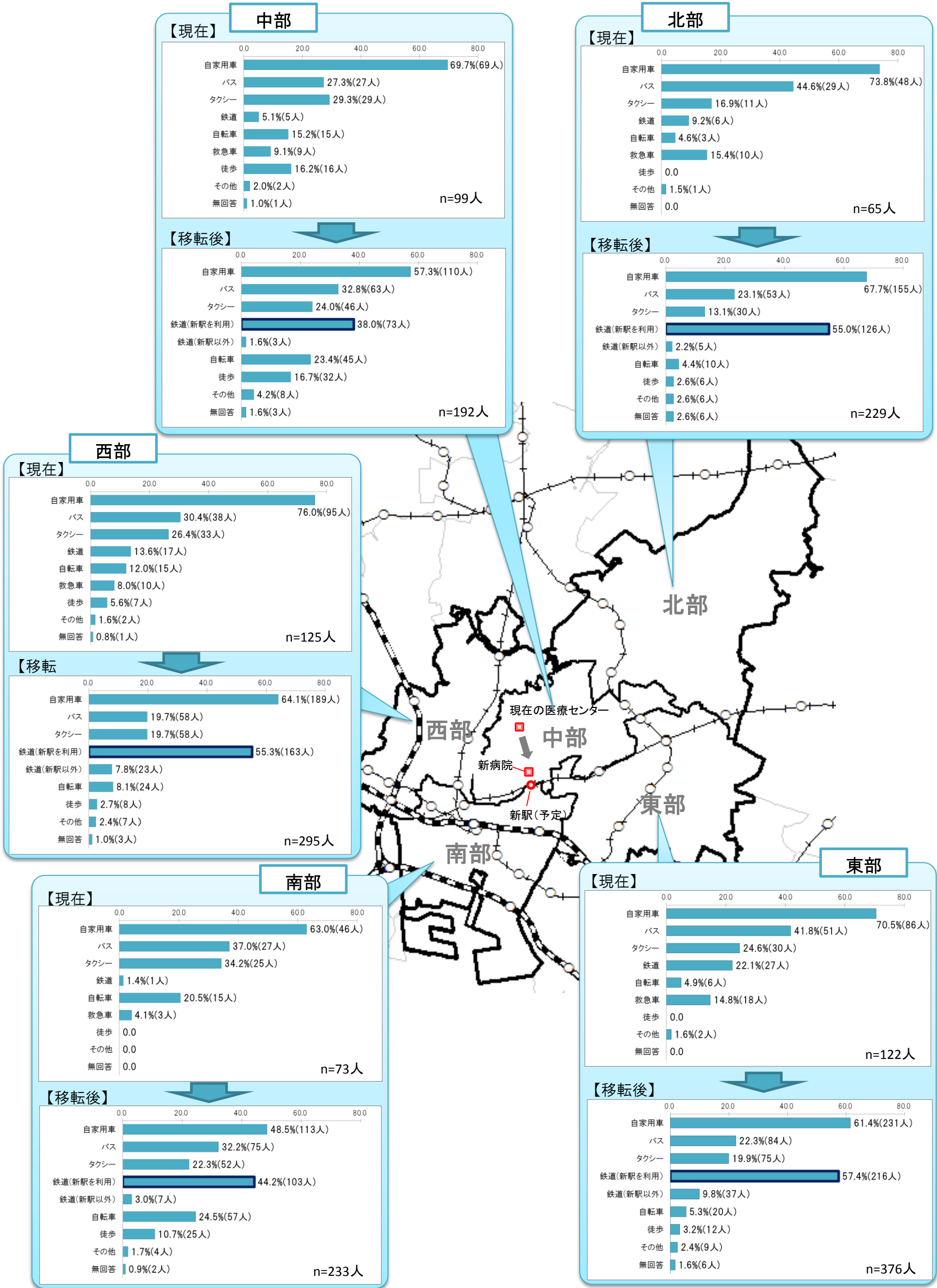


8-2. 新病院は、東葉高速線の新駅（予定）周辺に移転する計画です。
 移転後の新病院を利用する場合の交通手段はどれですか。
 （〇はいくつでも）※外来・検査・見舞い等での来院を想定（重症時は除く）



- 現在の交通手段は、7割以上の方が「自家用車」と回答しています。
- 新病院では、自家用車、バス、タクシーを利用する方の割合が、現在と比較して減少し、5割以上の方が「鉄道（新駅を利用する）」と回答しています。

●医療センターを利用する場合の交通手段(5ブロック別)



○平成30年2月現在（上段）の交通手段を地区別に見ると、どの地域も「自家用車」が1位となっています。自家用車の割合が最も高い地域は西部（76.0%）で、最も低い地域は南部（63.0%）となっています。「バス」や「自転車」の利用については、医療センターとの距離や、バス路線の有無によって、地域差が出ています。

○移転後（下段）の交通手段は、どの地域も「自家用車」の割合が下がりますが、1位をキープしています。次いで、「鉄道（新駅を利用する）」の割合が、どの地域も2位となっています。新駅を利用する割合が最も多い地域が東部（57.4%）で、最も低い地域は中部（38.0%）となっています。

○自家用車の割合が最も下がった地域は、南部（-14.5%）で、あまり変化がなかった地域は北部（-6.1%）と、新駅の利用しやすさが影響していると考えられます。